

小中一貫教育推進グループ G だより

令和 2 年 2 月 28 日

小中一貫に関する児童・教職員のアンケート結果と考察(1月)

《実施概要》

- 1 目的 本市内の小学6年生及び教職員の意識を把握すると共に、経年比較を行い、小中一貫教育の取組の参考に資する。
- 2 対象 本市内全小学6年生（回答数2,951人）、本市内小・中学校全教諭（回答数1,283人）
- 3 調査期間 令和2年1月6日～22日

■ 4 あてはまる ■ 3 ややあてはまる ■ 2 ややあてはまらない ■ 1 あてはまらない

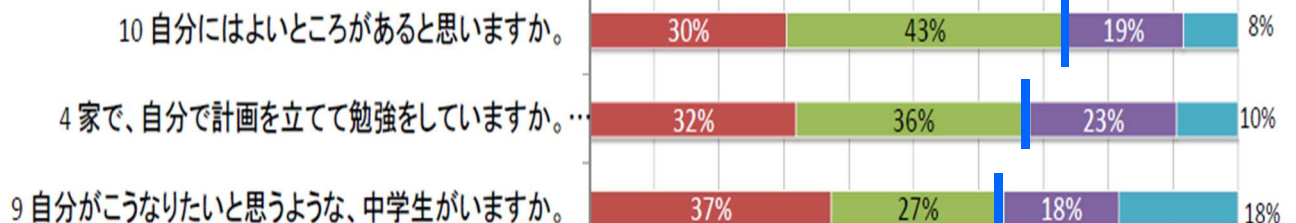
※ 4 と 3 を「肯定的回答」と捉える

1 児童アンケート結果

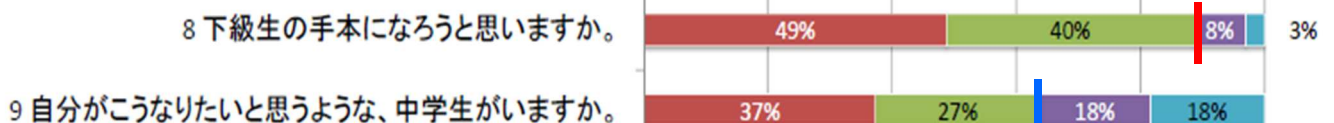
小 6（那覇市総計） 肯定的回答の割合が高い項目



小 6（那覇市総計） 肯定的回答の割合が低い項目



小 6（那覇市総計）における 比較

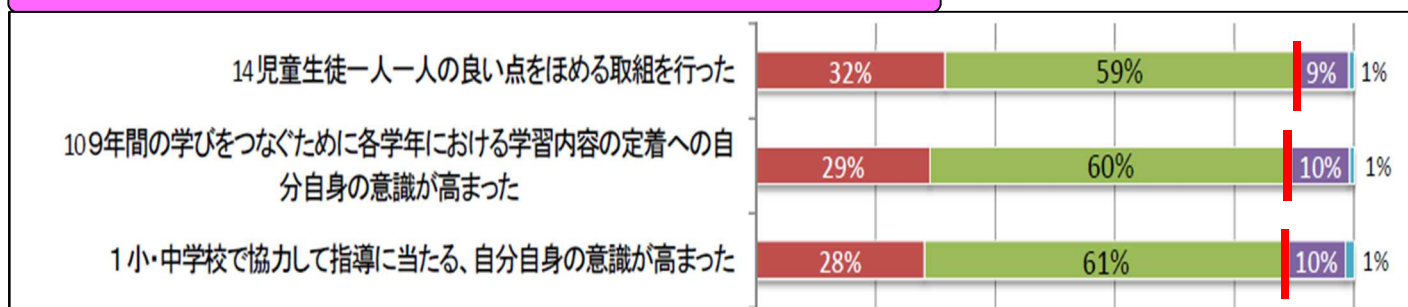


考察（小6アンケート）

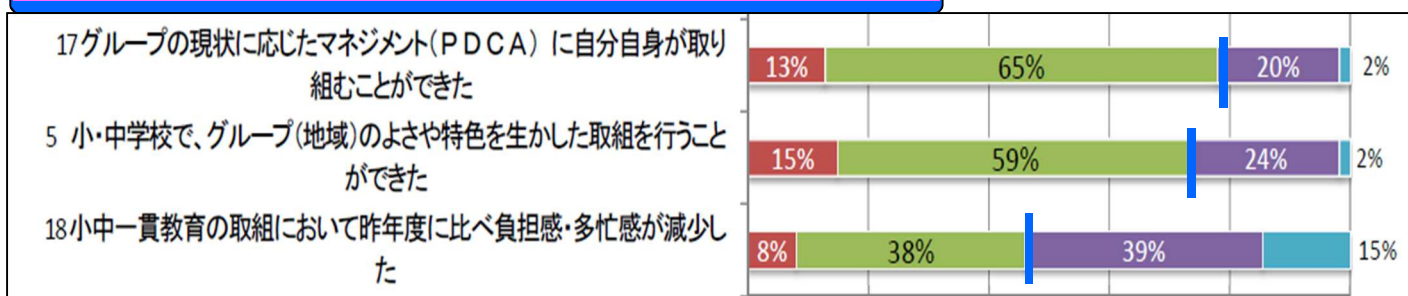
「8 下級生の手本になろうと思いますか」では肯定的回答の割合が 89%であるのに対し、「9 自分がこうなりたいと思うような中学生がいますか」では 64%となっている。小学校では下級生と効果的に関わっているが、同じ場で生活している下級生に比べると、上級生（中学生）の姿は意識しにくい様子が見えてくる。直接的な交流の場を設けるなど、実際に中学生と小学生が関わり合える工夫が必要であると思われる。

2 教職員アンケート結果

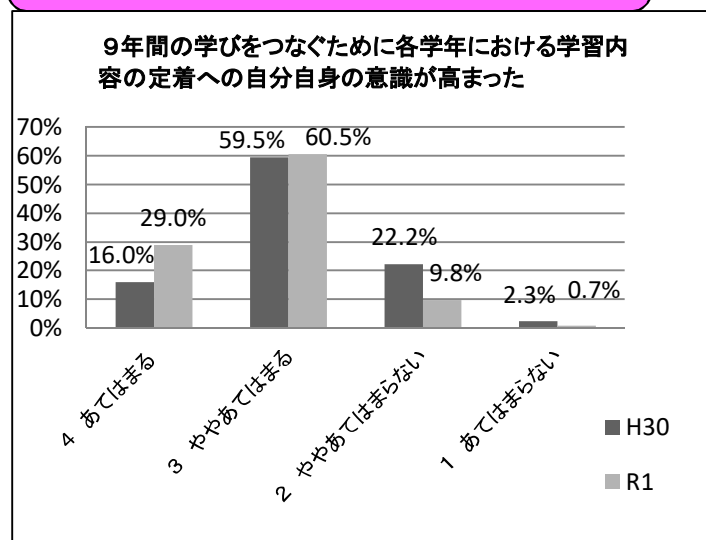
教職員（那覇市総計）肯定的回答の割合が高い項目



教職員（那覇市総計）肯定的回答の割合が低い項目



教職員（那覇市総計）H31年度との比較肯定的回答の割合が上がった項目



考察（教職員アンケート）

全体的に教師自身の意識の向上に関わる設問において、肯定的回答の割合が高かった。また、肯定的回答が8割を超えている項目が15/20項目であり、小中一貫教育に対して肯定的に感じている教職員が多いと考えられる。

教師は「ほめる取組」を91%行っているが、小6アンケートで「自分にはよいところがある」と思う割合は73%になっていることから、多様な人間性と関係性を育むなど多方面から自己肯定感を育てる手立てが必要であると考えられる。

小中一貫教育により効果的に取り組めるような、具体的手立てを示していきたい。

3 成果と課題

【成果】

- ・ いじめへの意識や規律の定着
- ・ 学習内容への理解の向上
- ・ 下級生を意識した生活
- ・ 教職員の意識の高まり

【課題】

- ・ 自己肯定感を高めるための、多様な人間性と関係性を育む手立て
- ・ 小・中学生の直接的な交流の場の設定
- ・ 見通しを持って取り組める、学習計画や家庭学習のための工夫
- ・ 小中一貫教育における、効果的な取組の工夫や精選